

二松学舎大学 ニュース IR

News IR

I R（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2024年度 1号（NO.17）

Contents

◆ PROGテストの実施について	1
◆ 二松学舎憲章	5

◆PROGテストの実施について

本学では、2017年度から、1・3年次生を対象として、大学卒業生として社会に求められる汎用的な能力・態度・思考（以下、ジェネリックスキル）の育成を目的に、「リテラシー」と「コンピテンシー」の両面からジェネリックスキルを測定するツール【PROGテスト】を導入して実施しています。

2023年度は、4月10日（水）～5月21日（日）に、web形式で実施しました。

学部	学年	受験者（受験率）	在籍者数
文	1年	412名（78.8%）	523名
国際政治経済	1年	165名（56.7%）	291名
文	3年	250名（54.5%）	459名
国際政治経済	3年	118名（50.0%）	236名
合計		945名（62.6%）	1509名

リテラシーとは、知識を活用して実践的な問題を解決する力を意味します。PROGでは、設定された状況や文脈の中で、文章や資料を読解したり計算したりするように工夫されており、自らの経験を活かした解釈や判断が問われる問題となっています。

コンピテンシーとは、自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力です。PROGでは、実社会で活躍する若手リーダー層の行動特性のデータと比較することで、実社会で通用する「周囲に働きかけ対処する力」を計測するよう設計されています。

学生の手元に届くPROGの個人結果報告書は、数値結果とイメージグラフィックで可視化され、学生が読みやすいよう、かつ自己理解を深められるように記載されています。

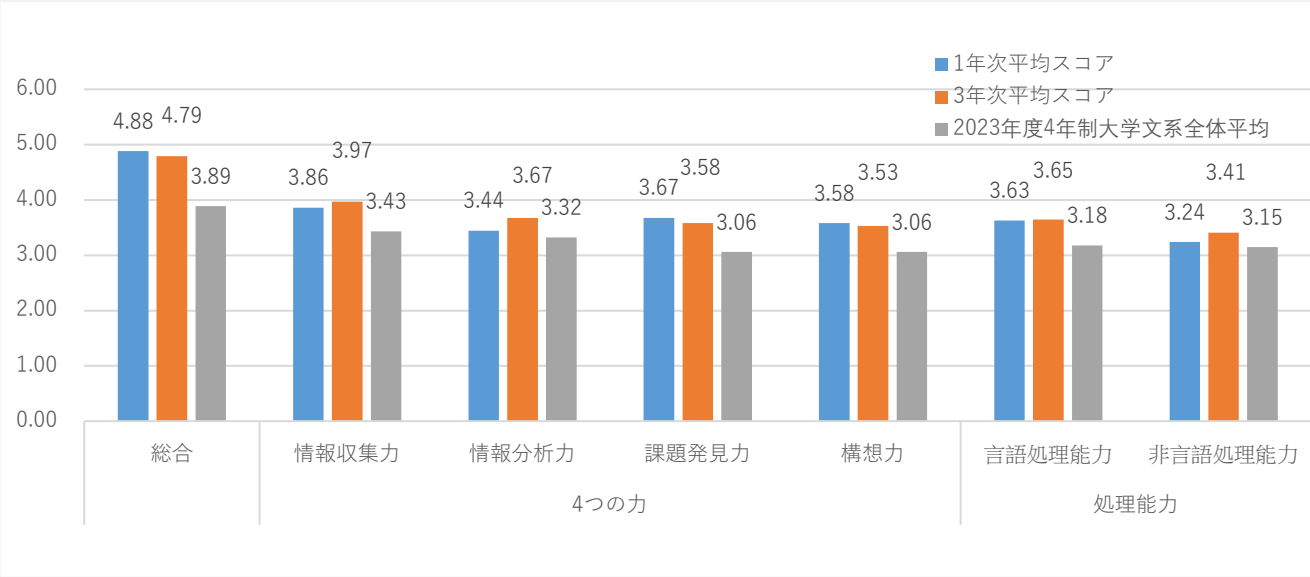
● 2021年度入学者に対して実施したPROGテストの受験学生について、1年次時点（2021年度）と3年次時点（2023年度）の両方を受験した学生を抽出し、各項目で平均スコアの経年比較を行いました。

両学部で、リテラシーの平均スコアは全国文系4年制大学の平均スコアより高いスコアを示しました。
1年次から3年次にかけて経年比較として
文学部では、4つの力のうち「情報収集力」「情報分析力」、処理能力（「言語処理能力」「非言語処理能力」）で成長がみられました。
国際政治経済学部では、「総合」、4つの力のうち「情報収集力」「情報分析力」「構想力」、処理能力（「言語処理能力」「非言語処理能力」）で成長がみられました。

リテラシーは『知識を活用して実践的な問題を解決する力』であり、授業・ゼミ、サークル活動、就職活動の経験によって、今後これらの能力が向上する可能性が考えられます。

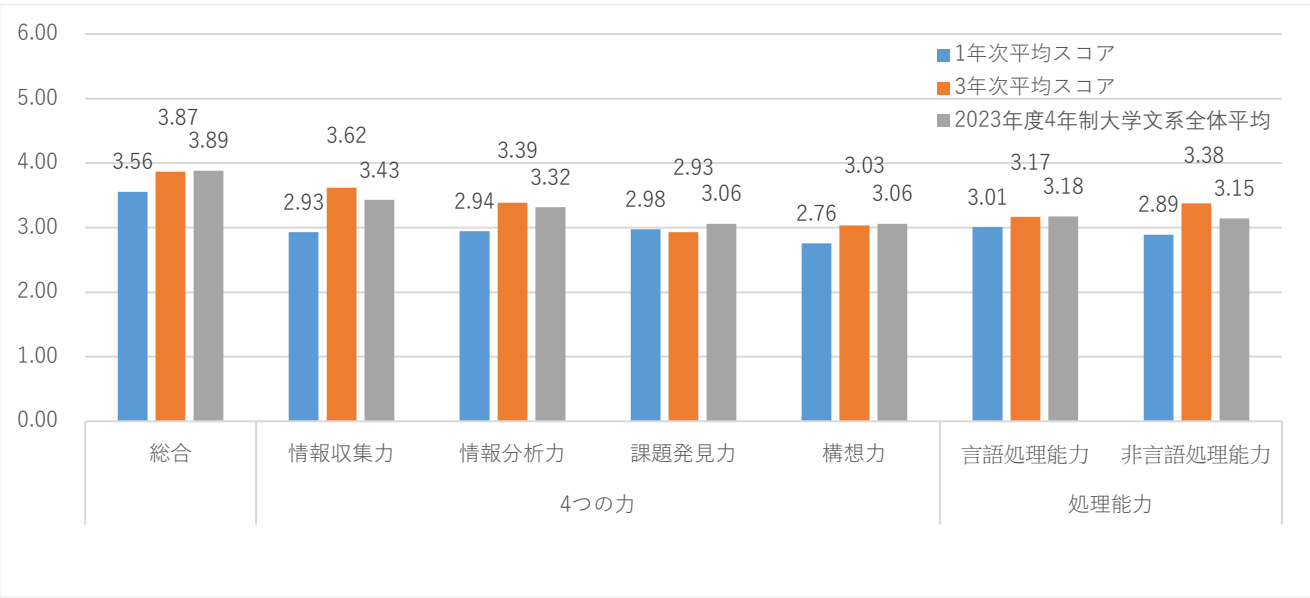
対象件数：リテラシー：209 最高スコア：7（処理能力のみ 5）

▲ 文学部のリテラシー 総合評価と4つの力の平均スコア



▲ 国際政治経済学部リテラシー 総合評価と4つの力の平均スコア

対象件数：リテラシー：90 最高スコア：7（処理能力のみ 5）

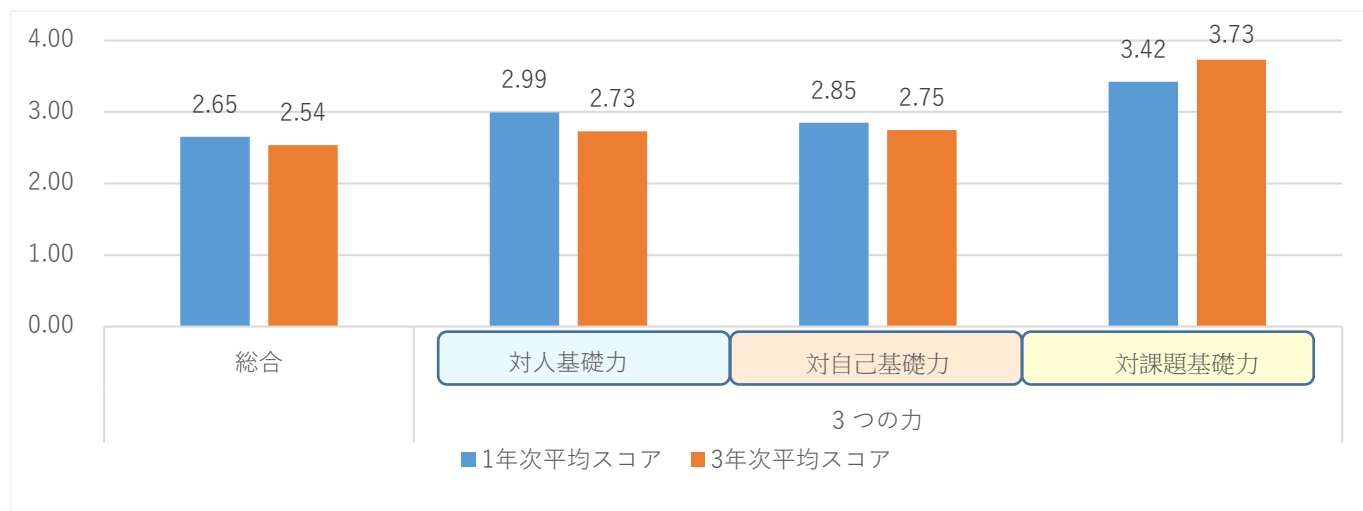


●コンピテンシーについては、その評価項目を構成する3つの要素とその総合評価の経年比較、そして3要素について各要素をさらに細分化した9つの要素の平均スコアを比較しました。

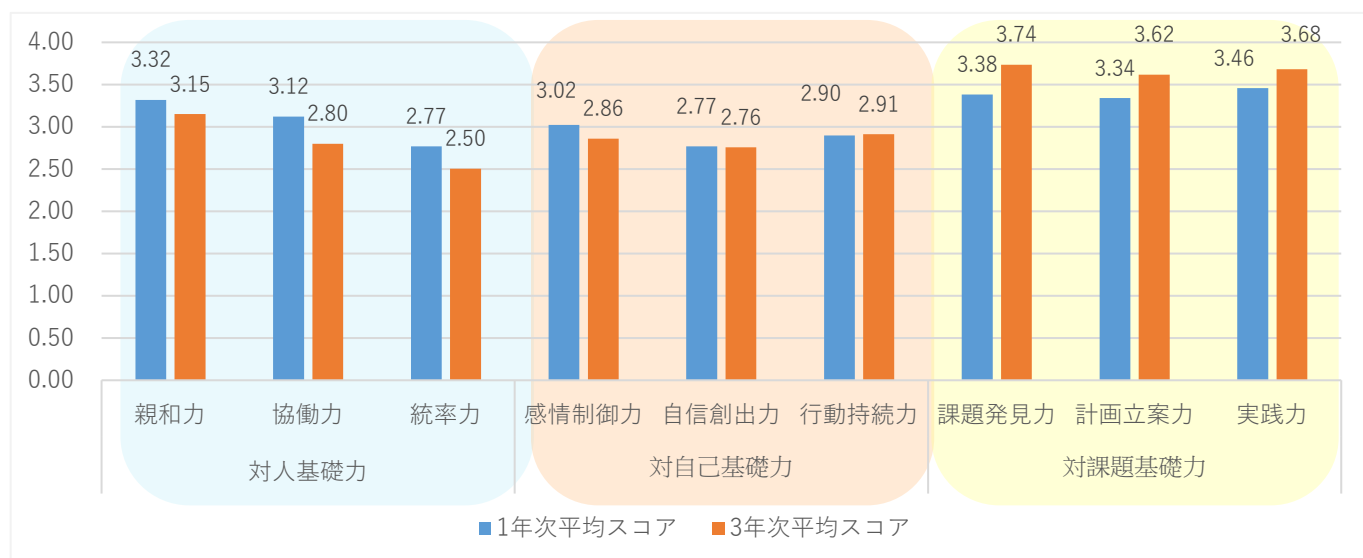
▲ 文学部コンピテンシー総合+3つの力

対象件数：コンピテンシー：185 最高スコア：7

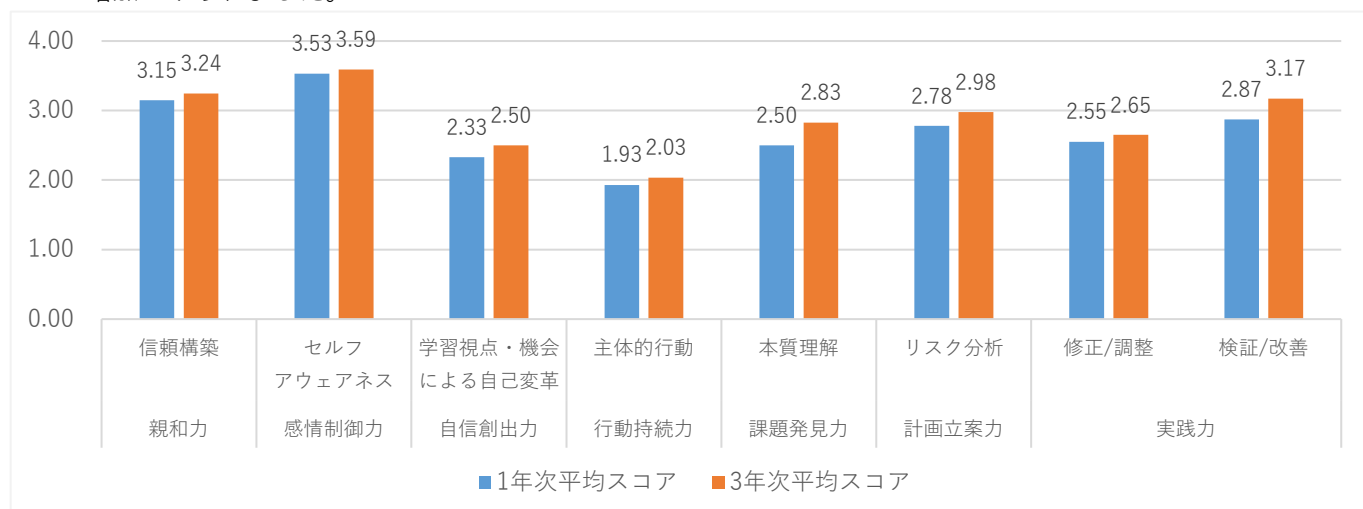
※両学年時点での受験者のうち、コンピテンシーの質問項目にすべて回答した受験者を対象としています。



▼ 文学部 9つの構成要素



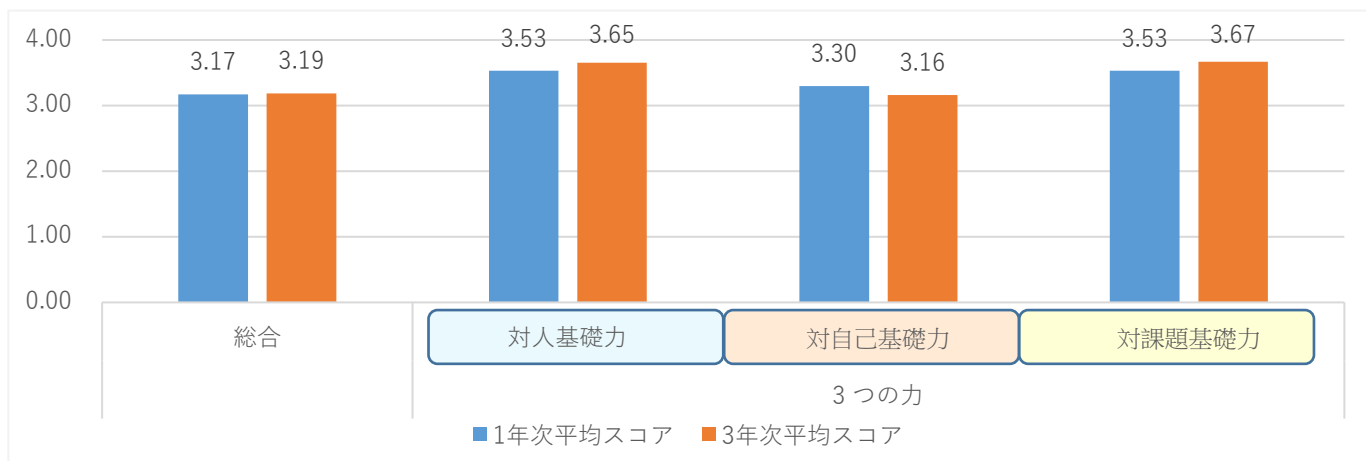
▼ 文学部では、9つの構成要素をさらに細分化した33の要素の経年変化では、以下のような要素で増加がみられました。



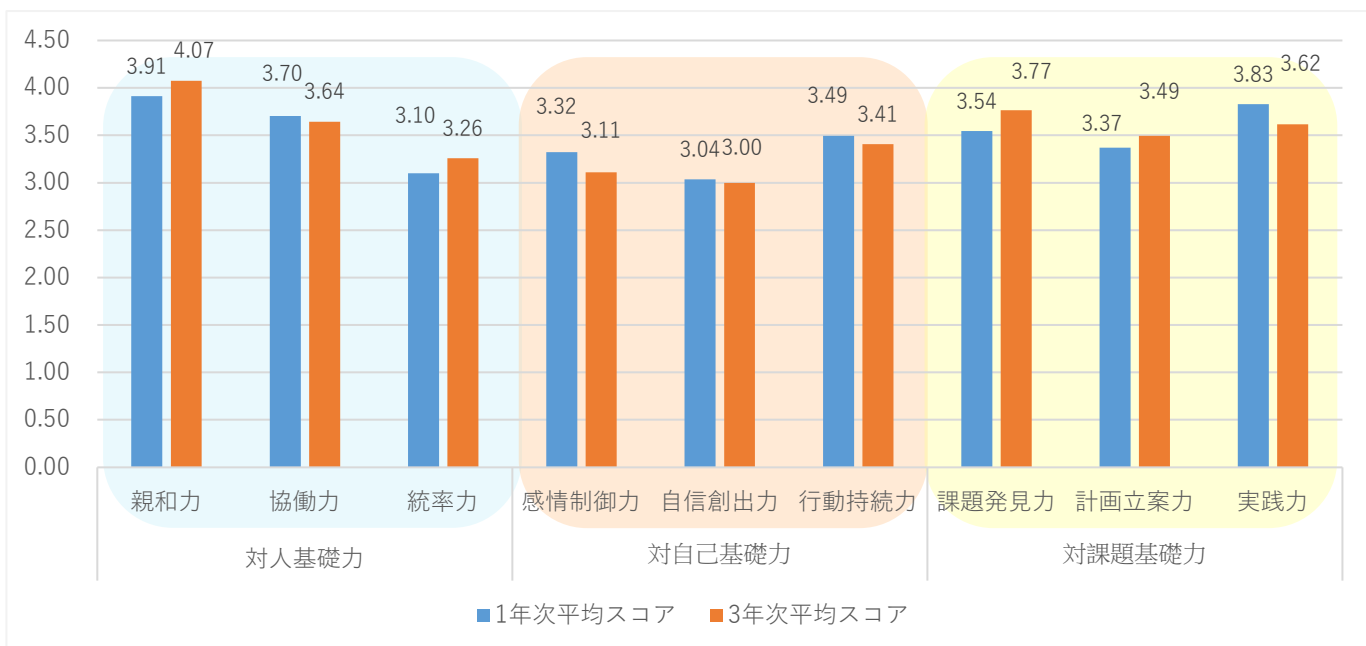
▲ 国際政治経済学部コンピテンシー総合+3つの力

測定数：コンピテンシー：81 最高スコア：7

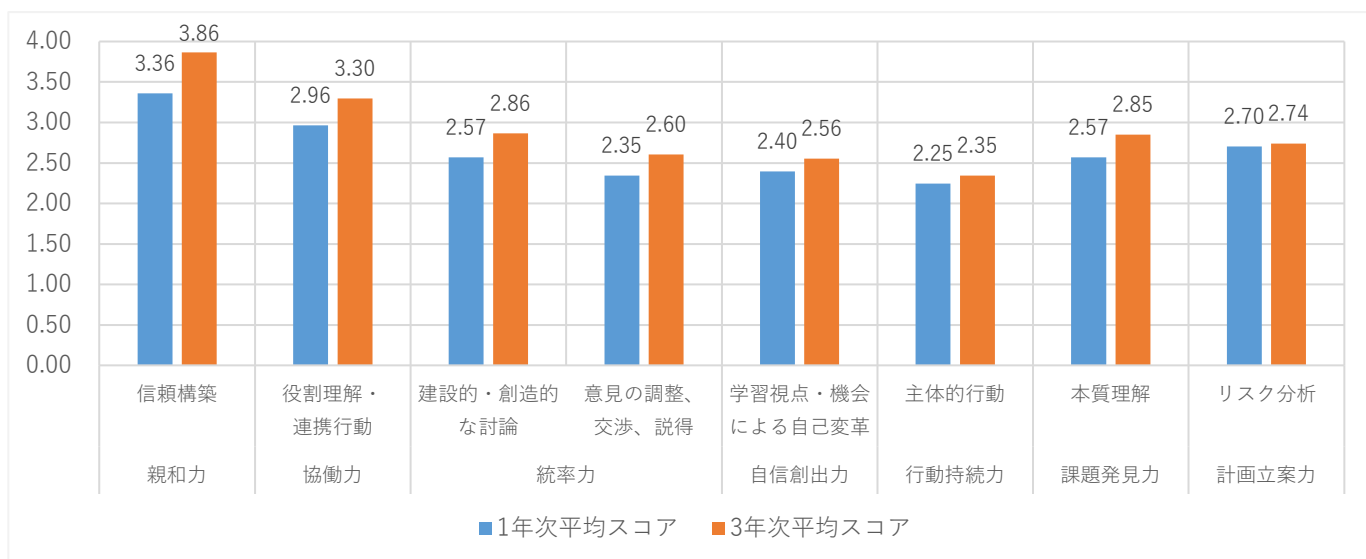
※両学年時点での受験者のうち、コンピテンシーの質問項目にすべて回答した受験者を対象としています。



▼ 国際政治経済学部 9つの構成要素



▼ 国際政治経済学部では、9つの構成要素をさらに細分化した33の要素の経年変化では、以下のような要素で増加がみられました。



- 9つの構成要素は、さらに33の要素に細分化でき、文学部の学生の平均スコアでは、「信頼構築」、「セルフアウェアネス」、「学習視点・機会による自己変革」、「主体的行動」、「本質理解」、「リスク分析」、「修正・調整」、「検証・改善」にスコアの増加がみられました。
- 国際政治経済学部学生の平均スコアでは、「信頼構築」、「役割理解・連携行動」、「建設的・創造的な討論」、「意見の調整、交渉、説得」、「学習視点・機会による自己変革」、「主体的行動」、「本質理解」、「リスク分析」にスコアの増加がみられました。
- いずれも授業・ゼミやサークルなどの課外活動、就職活動など様々な家機縁を通じて能力を高めたと考えられます。
- PROGテストで測定できるジェネリックスキル（社会人基礎力あるいは学士力）は、大学での授業・ゼミ、サークルやボランティア、アルバイトなどの課外活動、就職活動などを通して、その能力を向上させていけると言われています。
- 現段階での評価を見据え、経験を強みにとらえていくきっかけとして、自分自身が享受する学びや経験をどう生かして行動していくのか、ということについて考える機会となります。

二松学舎大学では、学生のさらなる成長に寄与するため、授業をはじめとし、学生支援体制や課外活動をより充実させ、これらの機会を創出していきます。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体现者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学
大学改革推進部 I R推進室
〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285
FAX (03)3261-7413
[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp